

平成21年度
ストップ温暖化教室
(子供向け)
実施結果報告書

平成22年3月

愛知県環境部大気環境課
地球温暖化対策室

地球温暖化とは、石油や石炭など化石燃料の燃焼等により大気中の二酸化炭素など温室効果ガスの濃度が増加し、地球の平均気温が上昇していく現象です。平成17年2月に京都議定書が発効し、日本は2008年から2012年の間に、1990年レベルと比べて温室効果ガスの排出量を6%削減することとしています。また、平成21年12月にデンマーク コペンハーゲンで開催されたCOP15では、先進国と新興国、途上国の対立という問題はありませんでしたが、世界の気温上昇を2度以内に抑えるという点については概ね合意がなされました。

国においては、先日、閣議決定された「地球温暖化対策基本法」で、すべての主要国による公平かつ実効性のある国際枠組みの構築及び意欲的な目標の合意を前提に、2020年までに温室効果ガス排出量を1990年比で25%削減する中期目標が、さらには、2050年までに80%削減する長期目標が明記されたところです。

本県では、地域における取組の一層の強化・推進を図るため、平成17年1月に「あいち地球温暖化防止戦略」を策定しています。「戦略」では、2010年度における県内からの温室効果ガス排出量を、1990年度（平成2年度）（基準年度）と比べて6%削減するという目標を立てていますが、2006年度（平成18年度）の本県の温室効果ガス排出量は基準年度比で9.5%増加しており、部門ごとにそれぞれの特性を踏まえた効果的な対策を講じることが必要です。

本県の温室効果ガス排出量の増加は、家庭生活や自家用車など県民の日常生活に係る分野から排出される二酸化炭素が大きな要因の一つであり、平成19年度から、家庭における温暖化への取組を一段と加速するため、「あいちエコチャレンジ21」を統一標語として、県民一人ひとりにエコライフの実践を促す県民運動を展開しています。

その取組の一つとして、地球温暖化防止及びエコライフの実践の普及啓発を図ることを目的とし、平成19年度から「ストップ温暖化教室」を実施しています。

「教室」では、地球温暖化防止活動推進員が指導員となり、楽しみながら温暖化について学び、日常生活の中でできることを考え、実践することをねらいとしています。

平成21年度は、前年度に引き続き、小学校高学年（5、6年生）と中学年（3、4年生）を対象としたプログラムを実施し、高学年向けは県内23市町52の小学校で、中学年向けは県内26市町62の小学校で実施し、あわせて8千人を超える児童が受講し、このたび、実施結果報告書を以下のとおりとりまとめました。

この事業の実施にあたり、ご協力をいただきました地球温暖化防止活動推進員、実施校の教師及び児童の皆様並びに、関係市町職員の方々に対しまして、ここに深く感謝申し上げます。

平成21年度 小学校高学年向け「ストップ温暖化教室」

1 実施結果の概要

(1) 実施目的

県内小学校で総合学習等の時間を活用し、地球温暖化防止活動推進員が指導員となり、「くらしと電気と温暖化」をテーマとして、生活で使用されている電気を取り上げ、身近な電気の使い方と地球温暖化問題とのつながりを理解し、自分の生活の見直しを図ることを目的としています。

(2) 実施時期

平成21年6月～平成22年2月

(3) 実施校等の概要

市町村：23市町（21市町）

実施校：52校（49校）

参加者数：3,706名（3,372名）

指導員：地球温暖化防止活動推進員 31名（28名）

()内は平成20年度実績

表 1 平成 21 年度小学校高学年向け実施校一覧

市区町名	学校名	指導員	市区町名	学校名	指導員
千種区	千種小学校	今徳義宣	蒲郡市	大塚小学校	山田由乃
西区	枇杷島小学校	伊藤光宏		西浦小学校	伊與田安廣
中村区	岩塚小学校	伊藤光宏	犬山市	今井小学校	北幸男
	八社小学校	広川雄三			西尾晴孝
守山区	小幡小学校	三ツ井好夫			若井宗臣
豊橋市	八町小学校	大須賀哲夫			近藤富士男
岡崎市	福岡小学校	三ツ井好夫	常滑市	常滑西小学校	中井三従美
	大雨河小学校	弟子丸富江		西浦南小学校	中井三従美
		形埜小学校	田上治	東海市	加木屋南小学校
一宮市	葉栗小学校	平野誠造	大府市	三ツ池小学校	浜島鐘利
	中島小学校	平野誠造		吉田小学校	佐藤みどり
瀬戸市	水南小学校	杉本利夫	知多市	石ヶ瀬小学校	佐藤みどり
	品野台小学校	相川良美		岡田小学校	相川良美
半田市	板山小学校	浜島鐘利	尾張旭市	渋川小学校	広川雄三
	横川小学校	石川由弘	高浜市	高浜小学校	小嶋正之
春日井市	鷹来小学校	伊藤富之		吉浜小学校	小嶋正之
	丸田小学校	広川雄三		高取小学校	小嶋正之
	東広瀬小学校	田上治		港小学校	小嶋正之
豊田市	中金小学校	池本寿罔		日進市	翼小学校
	藤沢小学校	浅野智恵美	南小学校		杉本利夫
	幸海小学校	弟子丸富江	相野山小学校		広川雄三
	滝脇小学校	河合志郎	田原市	野田小学校	松井賢子
	西保見小学校	田上治 長嶋一枝		若戸小学校	松井賢子
	足助小学校	池本寿罔	愛西市	佐屋西小学校	堀井俊宏
	大沼小学校	田上治 長嶋一枝 伴在慶一郎 青山克巳	東郷町	音貝小学校	今徳義宣
			七宝町	宝小学校	堀井俊宏
			武豊町	武豊小学校	石川由弘
	緑丘小学校	石川由弘			
小渡小学校	河合志郎	幡豆町	東幡豆小学校	今徳義宣 颯田幸子	

2 小学校高学年向け「ストップ温暖化教室」の学習内容

(1) テキスト

小学校高学年向け「ストップ温暖化教室」を実施するにあたって、小学校高学年が実験を通して地球温暖化防止及びエコライフの実践について分かりやすく学ぶため、専用のテキストを使用しました。

テキスト



(2) 学習内容

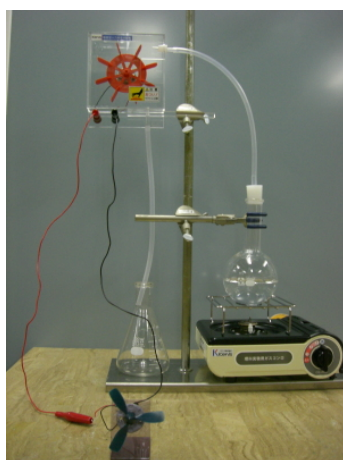
表2 小学校高学年向け学習内容の概要

時間 (目安)	学習内容
1 時 限 目	0. 導入 ●「宇宙から見た夜の地球」の写真を見て、明るい地域と暗い地域があること、また日本がそのうちの1つであることに気づく。 ●また、なぜそのような状況になっているかについて、疑問(興味・関心)をもつ。
	1. 地球はだいじょうぶ? ●現在、地球上で「異常気象が多発」していることを知る。 ●また、地球温暖化が進んでいることを知り、その原因・メカニズムを知る。
	2. 電気と温暖化 ●発電所で発電された電気を電気会社から購入していること、また作られた電気が電線を伝って、各家庭や学校などに届けられていることを知る。 ●日本の電気の約6割をつくっている火力発電所の仕組みについて知る。 ●火力発電所では、化石燃料を燃やして電気を起こしていることを知る。
	【実験1】火力発電所の仕組みを、たしかめよう。 ●実験を通じて、火力発電所の発電の仕組みを知る。 ●発電時に排出される二酸化炭素の濃度の測定を行い、発電前よりも発電時のほうが、濃度が高いことに気づく。
	【実験2】自分で、電気を起こしてみよう。 ●手回し発電器を使って、自分で電気を起こすことが大変であることを体感する。 ●電気は、使うより作るほうが大変であることに気づく。
2 時 限 目	3. 暮らしと電気 ●自分の電気の家庭での使用状況を振り返り、書き出す。 ●家庭で使う電化製品の消費電力の内訳を知り、自分が書き出したものと比較する。 ●「考えてみよう!!」の回答欄に、自分の考えを記入する。
	【実験3】2つの電球をくらべてみよう!! ●2つの電球の消費電力を比較し、どちらが地球に優しいタイプなのかを自分で確かめる。
	4. まとめ ●アクティビティ「地球とわたしのやくそくカード~できることから温暖化対策~」を通じて、本時の学習をまずは自分なりにまとめる。次に、友達同士で話し合い、考えを深め、次の行動へつなげる。

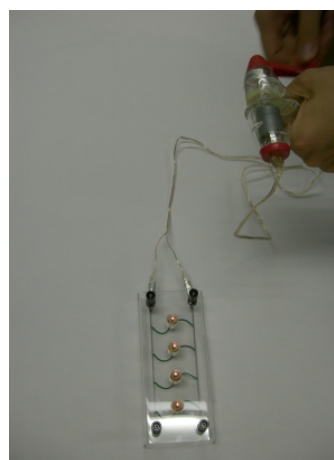
(3) 使用実験機器

表3 使用実験機器一覧（1セット当たり）

実験	品名	数量
実験1	二酸化炭素濃度計	1
	簡易型火力発電実験器	1
	鉄製スタンド	1
	ガスコンロ	1
	カセットボンベ	10
	沸騰石	1
実験2	手回し発電器	26
	手回し発電器補修ギアセット	2
	並列豆球台（豆電球付き）	9
	予備豆電球	300
	ストップウォッチ	1
実験3	照明器具	8
	60W白熱電球	18
	電球型蛍光ランプ	20
	消費電力計	8
	電源タップ	8
共通	軍手	適量
	折りたたみコンテナ	3



簡易型火力発電実験器



手回し発電器

3 小学校高学年向け「ストップ温暖化教室」の実施状況

(1) 実施状況

平成21年度は、52の小学校において実施しました。

時間等の都合上、学習内容を一部省略したり、実験器具が故障したりすることもありましたが、地球温暖化防止活動推進員が実験・実演を行い、創意工夫をしながら授業が進められました。



大府市立吉田小学校での様子

(2) 地球温暖化防止活動推進員・児童・教師の感想

(ア) 地球温暖化防止活動推進員の感想

- ・自分で電気を作ってみて、エネルギーの大切さを理解してくれたと思う。
- ・海面上昇により沈む島があることを説明。温暖化の影響が出て、困る人のことを考え、誰かのために何かをしたいと感じてくれたと思う。
- ・実験器具には、どれも関心を持ち、熱心に手回し発電器を回したり、電球の電力計算に取り組んでくれた。
- ・電球の消費電力の比較実験において、「親達に教えたい！」と書いて、記録している子供がいた。
- ・まだまだ喫緊の事態とは考えていないせいもあって、のんびり構えているようだ。
- ・生徒だけでなく、校長先生をはじめ教職員のみならず、まちの役員、保護者も参加していただき、全員で考える時間としました。
- ・人数が少ない学級だったので、きちんと説明ができ、児童の反応をひろうこともできた。
- ・電球からのCO₂の計算の後で、市の担当職員の方が、何本の牛乳パックに相当するかという例をあげてくれ、児童の理解向上につながった。このように身近なたとえを引き合いに出すことが大切と感じました。
- ・指示通りやれない、おしゃべりが多い、注意しても言うことをきかない子が多く、大変手こずった。
- ・2クラス合同で1人の推進員が実験を伴う授業をするのは、とても大変であった。
- ・3年同じプログラムで実施しているが、そろそろ本格的な対策の説明も取り入れてほしい。
- ・実験機器の不具合が多かった。
- ・受け取った実験機器の収納が乱雑で困った。

(イ) 児童の感想

- ・実験をやって、電球を4つ全部点けると重い=たくさん電気を使うということの方が分かりやすかった。
- ・節電はとても大事だと思った。さっそく実践してみたい。

- ・電気の使い方が地球温暖化に繋がるなんて、思ってもいなかったです。
- ・いつも普通に使っていた電気を作るのがすごく大変なことだと思った。これからは、電気を無駄に使わないようにしたい。
- ・普段の生活でも、電気の無駄使いや水の出っぱなしに気を付けていきます。
- ・おつかいに行くときは、エコバッグをなるべく使うようにしようと思いました。
- ・みんなで楽しくエコができるといいな、と思いました。
- ・地球温暖化が進むと大変なことがよくわかりました。これからは、地球にやさしい暮らしができるように頑張りたいです。

(ウ) 教師の感想

- ・環境について実践しているが理論付けの面でとても役に立ちました。
- ・実験もあり、計算をしてどちらが節電になるのか、など講義だけではなく、活動もあって大変充実しました。
- ・提示物、実験用具などの教材が効果的に使われており、すばらしい話術で子供たちを2時間意欲的に活動される指導力で感心しました。自分たちのできることから始めようと、ほとんどの児童が次の日から実践したようです。今後は、自分の家族、他の学年の子供たち、地域の人々へ、この取り組みを広げていけるとよいと思います。
- ・通常の理科の時間では実践できない実験を体験させていただくことで、児童が火力発電の仕組みや、地球温暖化のメカニズムを理解することができることは、大変意義のあることであると思う。今後とも継続して実施してほしい取り組みである。
- ・話すテンポを児童に合わせて下さり、分かりやすかったです。終わりかけに児童から「先生、9月になったらエコマークを探しに行こうね。」と誘われました。
- ・身の回りにある電気も、作ろうとすると労力があることを、実験で体感できたことにより、子供たちも、電気を大切にしようという思いが持てたと思います。電気とCO2、私達の生活を結び付けることにより、温暖化というものが具体的に分かった子もいて、よかったです。
- ・子供の顔を見て話して頂きよかったです。いきなり実験でも、小学生はのってくるのでまた参考にしてください。
- ・テキスト内の情報量をもう少し精選して頂けるとありがたいです。各実験において、児童は大変興味をもって取り組むことができました。
- ・楽しい実験が多く、実験そのものは児童の興味をひきました。実験の意図を児童にはっきり伝えること、始めの説明をできるだけ短縮すると児童の集中力も増したと思います。
- ・せっかくだいい気付きのできる実験、学習内容ですので、子供にもっと考えさせたり、気付かせたりする時間があってもいいかと思いました。
- ・子供たちに伝えることを考えると、もう少し展開に工夫がいると感じました。思いついたことを色々と伝えてくださるので、何を伝えるかをハッキリさせてから話してもらえると、さらに子供たちのためになったと感じます。

(3) 児童アンケートの結果

実施後、各小学校において、参加児童にアンケート（4項目）をしました。結果は次のとおりです。

- ・参加児童：3,706人
- ・回答数：3,075人
- ・回答率：83.0%

(ア) 質問1「地球温暖化について知っていましたか？」

「よく知っていた」と「まあまあ知っていた」を合わせると86%（昨年度は85%）となり、小学生の関心の高さがうかがえる一方で、「言葉だけ知っていた」は13%（昨年度も13%）、「知らなかった」は1%（昨年度は2%）でした。

(イ) 質問2「地球温暖化が大変であることがわかりましたか？」

「よくわかった」と「まあまあわかった」を合わせると99%（昨年度も99%）となり、地球温暖化に対する危機感を学ぶことができたと思われます。

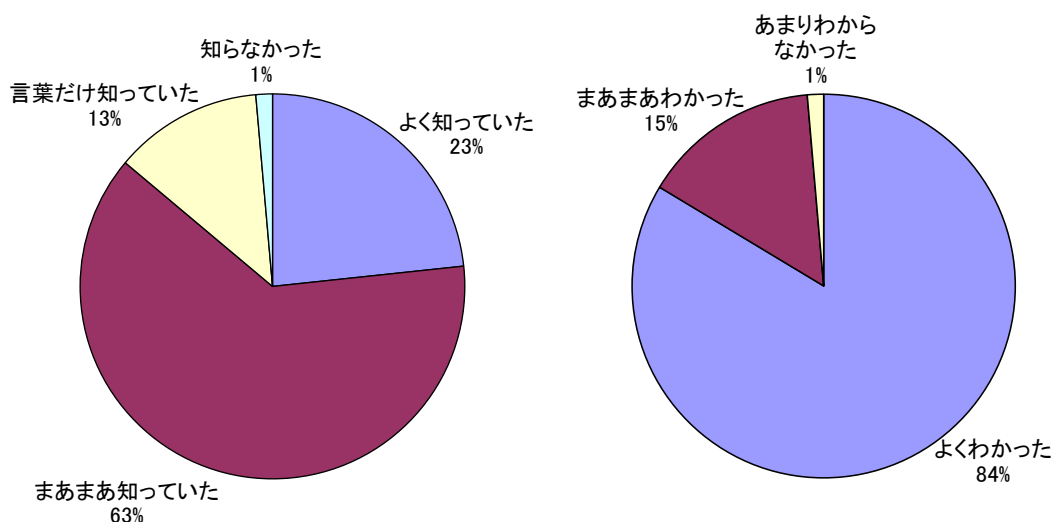


図1 質問1の回答結果

図2 質問2の回答結果

(ウ) 質問3「電気の使い方と地球温暖化問題とのつながりについてよくわかりましたか？」

「よくわかった」と「まあまあわかった」を合わせると98%（昨年度は97%）でしたが、質問2と比べると「よくわかった」の割合が少なくなりました。

(エ) 質問4「あなたは地球にやさしくらし方をできると思いますか？」

「思う」は60%（昨年度は58%）であり、一定の成果を得ることができましたが、一方で「わからない」が33%（昨年度は35%）もあり、地球にやさしい「エコライフ」の実践について、小学生からするとなかなか回答しにくい一面もうかがえました。

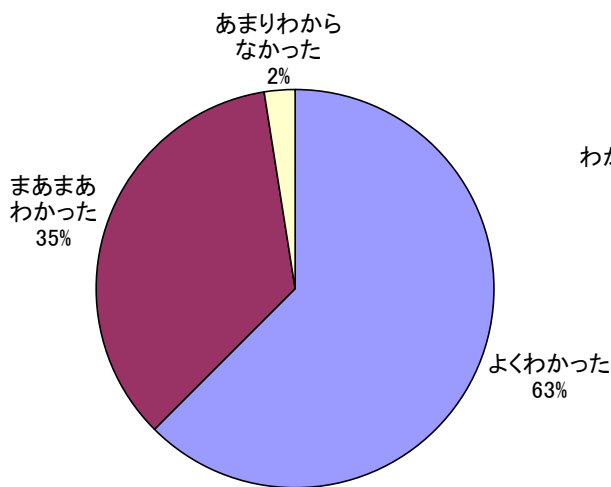


図3 質問3の回答結果

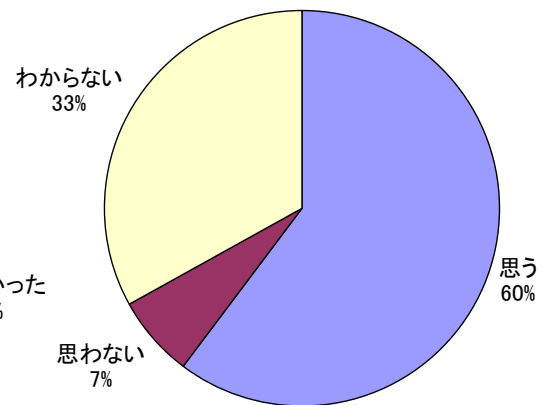


図4 質問4の回答結果

平成21年度 小学校中学年向け「ストップ温暖化教室」

1 実施結果の概要

(1) 実施目的

県内小学校で総合学習等の時間を活用し、地球温暖化防止活動推進員が指導員となり、現代の生活に密接に関わっている「エネルギー」に焦点をあて、以下のことを目的としています。

- 循環型社会であった江戸時代の生活例と現代のエネルギーを大量に消費する生活との違いを学ぶ中で、そこで生じる利便性と問題点について気づきを促す。
- 子どもがクイズやワークショップに積極的に参加することで、地球温暖化のメカニズム、影響等について、楽しみながら学ぶ。
- 自分たちの日常の生活の中で、自身でできることを考え、家族と共にエコライフ行動を実践する。

(2) 実施時期

平成21年6月～平成22年2月

(3) 実施校等の概要

市 町 村：26市町（25市町）

実 施 校：62校（93校）

参加者数：4,760名（6,799名）

指 導 員：地球温暖化防止活動推進員 46名（42名）

表4 平成21年度小学校中学年向け実施校一覧

市区町名	学校名	指導員	市区町名	学校名	指導員
北区	大杉小学校	伊藤夫沙恵 小林秀明	豊田市	若林西小学校	伴在慶一郎 青山克巳
	名北小学校	伊藤光宏		西保見小学校	戸塚純護
	川中小学校	伊藤光宏		飯野小学校	諸岡みどり
西区	枇杷島小学校	樋口祐子		石畳小学校	187
中村区	岩塚小学校	広川雄三		大沼小学校	河合志郎
中区	橘小学校	服部俊生	安城市	安城北部小学校	相川良美
豊橋市	八町小学校	松井賢子		丈山小学校	藤田佳
	大清水小学校	松井賢子		祥南小学校	杉浦ひろ子 鈴木隆夫 深津和良
	前芝小学校	大須賀哲夫			
	豊小学校	大須賀哲夫			
	汐田小学校	大須賀哲夫		桜林小学校	杉浦ひろ子 鈴木隆夫 深津和良
岡崎市	根石小学校	池本寿園			
	福岡小学校	澤田文夫			
	竜谷小学校	田上治			
	奥殿小学校	田上治 池本寿園 長嶋一枝			
蒲郡市	城南小学校	宮島美三男	蒲郡北部小学校	伊與田安廣	
	大雨河小学校	田上治	犬山市	城東小学校	北幸男 西尾晴孝 若井宗臣 近藤富士男
	下山小学校	田上治			
	西成小学校	平野誠造			
瀬部小学校	平野誠造				
一宮市	赤見小学校	平野誠造	江南市	藤里小学校	太田立男 望月晴夫 藤田泰雄 栗本明美
	浅野小学校	平野誠造			
	丹陽南小学校	平野誠造			
	浅井南小学校	横井正司			
	中島小学校	横井正司	小牧市	大城小学校	平野誠造
	起小学校	横井正司	新城市	舟着小学校	山田由乃
	朝日西小学校	横井正司		山吉田小学校	山田由乃
	瀬戸市	東山小学校	杉本利夫	大府市	東山小学校
半田市		横川小学校	尾張旭市	三郷小学校	樋口祐子
春日井市	勝川小学校	山川喜隆	豊明市	豊明小学校	黒野清隆
	西藤山台小学校	岩田浩	愛西市	草平小学校	横井正司
碧南市	棚尾小学校	竹原幸子		東郷町	音貝小学校
		加藤正勝	長久手町	市が洞小学校	岩淵準
刈谷市	富士松北小学校	相川良美	七宝町	秋竹小学校	服部俊生 小林秀明
	朝日小学校	相川良美			
			美和町	正則小学校	服部俊生
			甚目寺町	甚目寺小学校	広川雄三
				西小学校	原幸子
			蟹江町	舟入小学校	服部俊生

※一部、指導員の氏名に代えて、推進員番号を記載しています。

2 小学校中学年向け「ストップ温暖化教室」の学習内容

(1) テキスト

小学校中学年向け「ストップ温暖化教室」を実施するにあたって、小学校中学年がクイズやワークショップを通して地球温暖化防止及びエコライフの実践について分かりやすく学ぶため、専用のテキストを使用しました。



テキスト

(2) 学習内容

表5 小学校中学年向け学習内容の概要

時間 (目安)	ねらい	学習内容
1 時 限 目	●今使っているエネルギーは昔のエネルギーとどう変わっているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の写真から、江戸時代の道具と今の道具を線で結び、どのように違っているかを考える。 ・道具の使用方法、道具を使用するためのエネルギーを考えて江戸時代と今を比較する。 ・江戸時代はエネルギーをあまり使用しない暮らしをしていたことを知る。
	●便利な暮らしを支えているものは？	<ul style="list-style-type: none"> ・今の便利な暮らしは、電気、ガス、ガソリンなどたくさんのエネルギーを使用していることを知る。 ・電気は、石炭や石油、天然ガスなどを燃やして作られることを知る。
	●エネルギーをたくさん使うと困ったことがおきる？	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーをたくさん使うと二酸化炭素が排出され、地球温暖化の原因になることを知る。 ・石炭や石油、天然ガスの量は限りがあり、大切に使用しなければならないことを知る。
	●地球温暖化の仕組み、影響は？	<ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素が増えると地球温暖化が進むことを知る。 ・地球の温度は少しずつ上がっており、色々な問題がおきてくることを知る。
2 時 限 目	●エネルギーを上手に使うための行動は？	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズ形式で、地球温暖化をストップするために、エネルギーを上手に使う方法について考える。
	●自然の力を利用して温暖化をストップ！	<ul style="list-style-type: none"> ・森を育てる、打ち水をする、自然エネルギーを利用することが温暖化防止に効果があることを知る。
	●考えよう！わたしたちに来ること	<ul style="list-style-type: none"> ・家のイラストを見ながら、エネルギーの無駄を減らせる箇所を見つけ、方法を考える。
	●エコな一週間スケジュールをたてよう！	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えたアイデアと友達アイデアを交換して、エコな一週間スケジュールを作成する。 ・家や学校で実践するように働きかける。

3 小学校中学年向け「ストップ温暖化教室」の実施状況

(1) 実施状況

平成21年度は、62の小学校において実施しました。

全般的には、プログラムの内容に沿って実施することができました。地球温暖化防止活動推進員は、独自のクイズを実施したり、小物などを活用して、創意工夫をしながら授業が進められました。



半田市立横川小学校での様子

(2) 地球温暖化防止活動推進員・児童・教師の感想

(ア) 地球温暖化防止活動推進員の感想

- ・先生がかなり気配りしてくれたので、充実した授業ができた。
- ・帰りに生徒から握手を求められてビックリ、なかなか良い雰囲気でした。
- ・課外学習でも温暖化を取り上げ勉強している子供達があり、総合的に環境問題への意識が高かった。
- ・パワーポイント上の字幕やフクロウ博士の言葉を、全員で言葉に出して読ませることで、より学習効果を上げるようにした。
- ・地球が温かくなってきていることは体感的に分かっているようだが、温室効果ガスによる温度上昇等という話は少し難しかったようで、もう少し分かりやすい説明が出来たらと反省している。
- ・質問時間が取れなかった。短時間でも質問の場をつくれればよかったと反省しました。
- ・用語は小学3年生を意識して、出来るだけやさしく、重要な部分は繰り返し説明して理解させることを意識して進めた。
- ・子供達に「今日勉強したことを、今晚、家の人に話してあげてね」と言ったら、全員が「はい」と答えてくれたのが嬉しかった。
- ・あらかじめ宿題をお願いしていたため、スムーズに進行することができた。
- ・プロジェクターでの説明のみだと飽きるのので、現物を見せるなどの工夫が必要だと感じた。
- ・温暖化現象の仕組みを理解させるには、もう一步内容の向上が必要。
- ・情報が多すぎる、との指摘をいただいた。
- ・小学4年生の子供たちに、できるだけ気付き・理解を得ようとすると、中身が多すぎる。
- ・小学3年生はどうしても飽きてくるので、手回し発電器のようなものがあれば助かる。

(イ) 児童の感想

- ・地球温暖化を早くストップさせて、絶滅しそうなシロクマや、雨が降らないアフリカを救いたいと思いました。
- ・いつもペットボトルを使って、捨てていたけど、地球のために水筒を使おうと思います。

- ・いつもお風呂で頭を洗うときにシャワーを出しっぱなしにしていたけど、これからは、家族みんなでシャワーを出しっぱなしにしないように気をつけます。
- ・普段聞けない話を聞けて、どうすれば良いか分かって、とても勉強になりました。
- ・お母さんやお父さんにも詳しく話して、知ってもらいたいです。今日決めた目標を守れるようにしたいです。
- ・エアコンをつけずにすむように、緑のカーテンをやってみたいです。
- ・これからは外で遊んだり、外出は自転車で行きたいです。

(ウ) 教師の感想

- ・こうした学習は子供の頃の思い出が大切なので、今後も長く続けてほしいと思います。
- ・CO₂の削減がなぜ必要かをくわしく説明していただき、小学生が自分にできることを考えられるようになってよかった。
- ・子供たちは、「地球温暖化」は何かについて理解し、自分たちにもできることをやってみようという気になったようです。ここで芽生えた芽を大切に育てて、将来すすんで地球を大切にできる人になって欲しいと思いました。そのために、この後、さらに追求させて、行動させていきたいと思います。
- ・授業がきっかけに「エコ」と言うことばが増えました。活動の最中にどうしたらエコに繋がるか考えて動く姿も見られました。
- ・地球温暖化という問題について知り、考えるよう機会になりました。自分ができるエコについて心がけたいという反応が多く上がり、意識づけが出来ました。
- ・優しい口調で丁寧に説明してくださったのでわかりやすかった。1週間の生活の工夫を考える授業での分類、質問コーナーが児童の心に残った。「自分が実践すれば温暖化防止に役立つ」という意識を持つことができた。来年度もぜひお願いしたい。
- ・代表の子だけでもいいので、簡単な体験 or 実験ができればいい。(例えば、地球が熱くなっていることを実感させるために、毛布をかぶせるなど)
- ・時折、表現が難しいところがあり、子供たちが追ってこられない場面があったのが、気になりました。
- ・クイズのようなものを取り入れられており、興味を持ってその後の新聞づくりや、グループ発表などで活かされたと思います。
- ・小学4年生ですと、まだ大人の話す早さについていけないとありますので、もう少しゆっくり話していただけると子供たちの理解も深まると思います。
- ・地球温暖化が進むと、どのような恐ろしいことが起こるのかについて、実感できるような活動の場が何か設定されていまして子供の中に危機感が残り、収穫が多かったように思います。
- ・実際に、温暖化に伴って起きる困ったことを実感し、“やらなくては”と思えるような具体的な内容にしてもらえると子供も集中できると思う。
- ・触れる、試すなど具体的な実体験を取り入れるような方向性を出してください。2時間、見る・聞くが続くのは9～10歳の児童には厳しいです。

(3) 児童アンケートの結果

実施後、各小学校において、参加児童にアンケート（４項目）をしました。結果は次のとおりです。

- ・参加児童：４，７６０人
- ・回答数：３，９９４人
- ・回答率：８３．９％

(ア) 質問１「地球温暖化について知っていましたか？」

「よく知っていた」と「まあまあ知っていた」を合わせると７５％（昨年度は８１％）となり、「言葉だけ知っていた」は２１％（昨年度は１６％）、「知らなかった」は４％（昨年度は３％）でした。高学年向け参加児童と比較すると、若干知っている児童が少ない結果になりました。

(イ) 質問２「地球温暖化が大変であることがわかりましたか？」

「よくわかった」と「まあまあわかった」を合わせると９９％（昨年度は９８％）となり、高学年向け教室と同様、地球温暖化に対する危機感を学ぶことができたと思われれます。

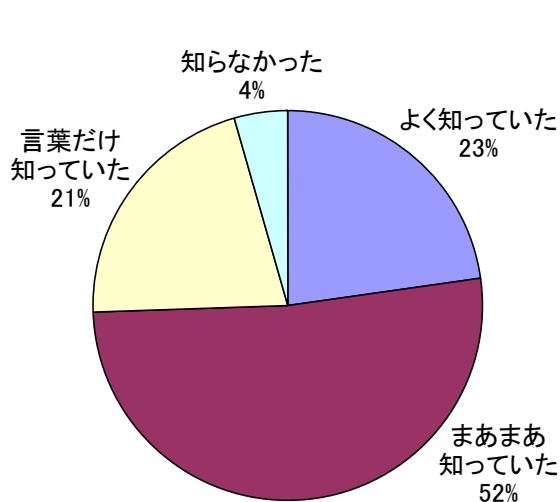


図５ 質問１の回答結果

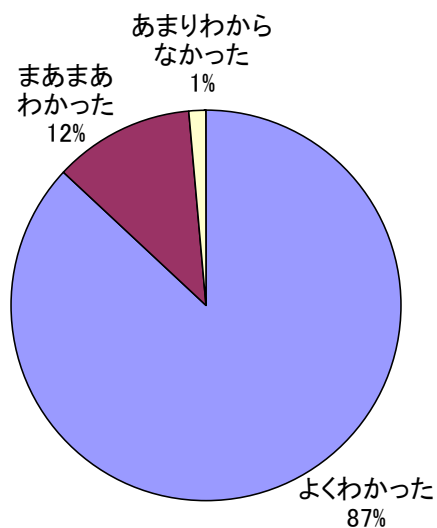


図６ 質問２の回答結果

(ウ) 質問3 「地球温暖化の原因についてよくわかりましたか？」

「よくわかった」と「まあまあわかった」を合わせると97%（昨年度も97%）でしたが、質問2と比べると「よくわかった」の割合が少なくなりました。

(エ) 質問4 「あなたは地球にやさしい暮らし方をできると思いますか？」

「思う」は69%（昨年度は63%）であり、高学年向けと比べると9%高く、一定の成果を得ることができました。しかし、高学年向け教室と同様、「わからない」が27%（昨年度は32%）もあり、地球にやさしい「エコライフ」の実践について、小学生からするとなかなか回答しにくい一面もうかがえました。

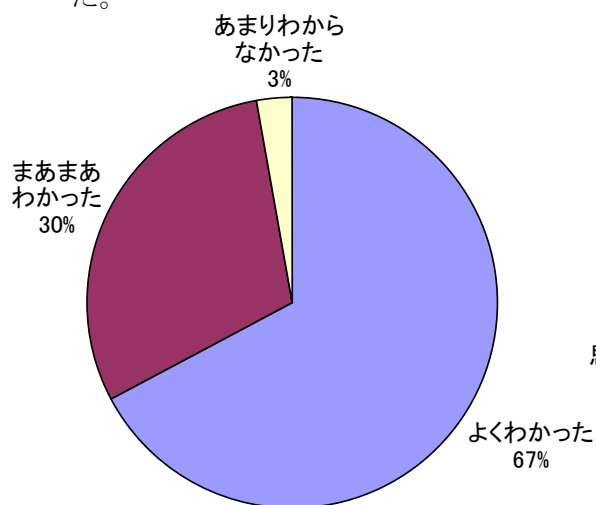


図7 質問3の回答結果

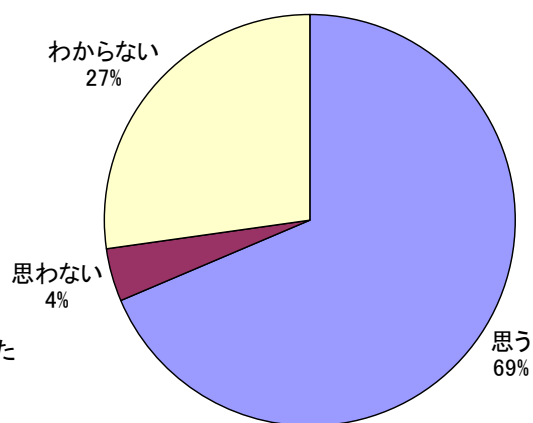


図8 質問4の回答結果

まとめ

地球温暖化防止活動推進員、実施校の教師、関係市町職員等、皆様のご協力のもと、平成21年度は8千人を超える児童が「ストップ温暖化教室」を受講し、参加児童は、講義・実験等を通じて、地球温暖化のメカニズム等を理解するとともに、地球にやさしいエコライフについて学ぶことができました。

地球温暖化問題は、待ったなしで取り組まなくてはならない課題であり、その影響は50年後100年後といった子供達の世代に、今以上の大きな問題として顕在化してくる恐れがあります。私たち大人は、将来の世代に問題を先送りするのではなく、自らのライフスタイルを転換し、環境に配慮して行動するとともに、子供達に地球温暖化問題について、教えていくことが大切です。

こうした中、将来を担う子供達に「ストップ温暖化教室」を実施することは、大きな意義があると考えています。

「ストップ温暖化教室」で学んだことをいかし、今後も学校などで、さらに発展した学習を実施いただくとともに、児童たちがエコライフを家庭で実践し、家族の中の旗振り役として行動することにより、エコライフの輪が広がっていくことを期待しています。

<「あいちエコチャレンジ21」宣言>

私たちの生活から排出される二酸化炭素などによって、大気や海水の温度が年々上昇する地球温暖化問題は、私たち自身の未来に関わる大きな問題です。

この問題を解決するには、私たち一人ひとりが日々の暮らしを見直し、できることから省エネルギー・省資源に努めていくことがとても大切です。

私たちは、2005年に愛知県で開かれた「愛・地球博」の理念を受け継ぎ、地球温暖化防止につながるエコライフの実践の輪を広げていきたいと思えます。